

専門分野 I 12科目 13単位 465時間

<基礎看護学>

人間に対する理解を深め、健康の概念、保健医療福祉における看護の役割について学ぶ。また、看護実践の基礎となる看護技術や問題解決の方法などの知識・技術・態度を習得する。

科目名	看護学概論 Introduction			講師名・ 実務経験	野月千春・看護師
講義時期	1年後期	講義回数	15回	単位・時間数	1単位(30)
		講義方法	講義		
試験予定	1年次9月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする。				
参考書	系統看護学講座 専門 I 基礎看護学〔1〕看護学概論 (医学書院)				
講義のねらい	人間、健康、保健医療福祉の概念とともに、看護の概念を理解し、現代社会の中での看護の位置づけと役割を学ぶ。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の歴史の変遷や理論家による看護のとらえ方を学び、看護の本質について考えることができる。 2. 看護の機能と役割を看護理論家・専門団体等による定義より理解できる。 3. 健康の概念と健康をまもる医療保健チームの役割を理解できる。 4. 看護の対象について理解できる。 5. 看護職の状況やキャリア開発について理解できる。 6. 医療、看護をめぐる倫理原則を理解し、倫理的問題の解決について理解できる。 7. 看護の提供のしくみについて理解できる。 				
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とは <ol style="list-style-type: none"> ①看護の歴史の変遷②看護の定義③看護の役割と機能④看護の継続性と情報共有 2. 看護の対象の理解 <ol style="list-style-type: none"> ①人間とは②人間を理解するための理論 3. 国民の健康、生活の理解 <ol style="list-style-type: none"> ①健康とは②健康の捉え方と国民の健康状態 4. 看護の提供者 <ol style="list-style-type: none"> ①看護職者とその資格②看護職の就業状況と継続教育③看護職の養成制度の課題 5. 看護における倫理 <ol style="list-style-type: none"> ①1看護倫理とは②看護実践における倫理的問題 6. 看護の提供の仕組み 				
講義内容	<p>1回目 看護とは</p> <p>2回目 看護の概念、今、私達が考える看護とは</p> <p>3回目 看護の機能と役割、看護の継続性と役割</p> <p>4回目 看護の対象を学ぶ視点、人間の「こころ」と「からだ」 ホメオスタシスという体の反応、ストレスとは</p> <p>5回目 看護の対象をストレス学説から理解する 患者のストレス状況の認知と対処行動の理解 患者心理の理解、対象の心の理解に役立つ理論</p> <p>6回目 対象の心の理解に役立つ理論 生涯発達と続ける存在としての人間</p> <p>7回目 人間の暮らしの理解、生活・家族・地域を視野に今後の看護活動</p> <p>8回目 健康とは何か、健康でない状態とは、障害とは何か、 健康状態から見た段階</p> <p>9回目 健康の概念(グループワーク) 私たちの健康に影響を与えている要因とは何か</p> <p>10回目 健康とは</p> <p>11回目 健康の概念、臨床技術としての看護</p> <p>12回目 看護における倫理</p> <p>13回目 当校の教育理念、目的、目標、卒業生像</p> <p>14回目 当校の教育理念、目的、目標、卒業生像</p> <p>15回目 試験</p> <p>※グループ討議やグループワークがあります</p>				

専門分野 I

科目名	基礎看護技術 I (技術概論) Nursing Arts I		講師名・ 実務経験	佐野なつめ・専任教員	
講義時期	1年後期	講義回数	15回	単位・時間数	1単位(30)
		講義方法	講義		
試験予定	1年次9月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする。				
参考書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②(医学書院)				
講義のねらい	看護技術の概念を理解し、看護を実践するうえで基礎となる共通の技術について学ぶ。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の特殊性について理解できる。 2. 看護における安全・安楽・自立の意義とその方法を理解できる。 3. 問題解決過程の展開と方法を習得できる。 4. 看護場面におけるコミュニケーションの意義と、技術が実際に活用できるよう、その方法を学ぶ。 5. 心理・社会面が健康に及ぼす影響とその援助方法を理解できる。 				
講義概要	<p>[看護技術概念]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術とは 2. 看護技術の目的・種類・活用 <p>[共通基本技術]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係を成立し、発展させるための技術 2. 健康学習を支援し成長を促す技術 3. 看護を展開する技術 4. 安全かつ快適さを確保する技術 5. 教育的支援の技術 				
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1回目 看護技術の特徴・概念 2回目 看護場面におけるコミュニケーションの意義 3回目 人間関係を成立・展開させる技術 4回目 プロセスコードの検討 5回目 アサーション(演習) 6回目 看護におけるカウンセリングの意義 7回目 看護活動における記録の目的・意義 8回目 看護を展開する技術① (アセスメント・全体像の統合、問題の特定) 9回目 看護を展開する技術② (看護計画、実施、評価) 10回目 看護を展開するための技術③ (看護過程の演習) 11回目 安全・安楽のための技術 12回目 心理的・社会的側面への援助 13回目 看護における学習支援の対象と方法 14回目 教育的支援の技術 15回目 試験 				

専門分野 I

科目名	基礎看護技術Ⅱ Nursing Arts Ⅱ		①活動・休息 ②バイタルサイン	講師名・ 実務経験	福森 茂樹・専任教員																
講義時期	1年前期	講義回数	15回	単位・時間数	①1単位(30)の内の(20)																
		講義方法	講義・演習		②1単位(30)の内の(10)																
試験予定	1年次9月																				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする。																				
参考書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②、③(医学書院)																				
講義のねらい	<p>1. 人間にとっての活動・運動の意義を理解し、活動・運動機能が障害された対象への援助について学ぶ。</p> <p>2. 対象のバイタルサインを正確に測定するための知識、技術、態度を習得する。</p> <p>3. 人間にとっての睡眠・休息の意義を理解し、睡眠・休息が障害された対象への援助について学ぶ。</p>																				
学習目標	<p>《活動・休息》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 活動・運動の意義を理解し、活動・運動が障害された対象のニーズを理解することができる。 2. 体位の種類と適応、体位変換・移動の目的と方法を理解し、安全・安楽に配慮した活動の援助ができる。 3. 日常生活動作(食事・排泄)に障害のある対象に対する援助ができる。 4. 睡眠・休息の意義と援助方法を理解できる。 <p>《バイタルサイン》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイタルサイン測定の意義とその変動因子を理解し、正確な測定ができる。 																				
講義概要	<p>《活動・休息》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 活動・運動の意義と援助方法 <ol style="list-style-type: none"> ①活動・運動の基本概念 ②活動・運動機能低下の要因や影響 2. 体位変換、移乗、移送の技術演習 <ol style="list-style-type: none"> ①安楽な体位・肢位への援助 ②ボディメカニクスの活用 3. 食事、排泄への援助方法 4. 休息の意義と援助方法 <p>《バイタルサイン》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイタルサインの定義 <ol style="list-style-type: none"> ①バイタルサインの測定の意義 ②バイタルサインの正常値と変動因子 ③バイタルサインの測定方法 2. バイタルサイン測定の技術演習 																				
講義内容	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1回目 活動とは</td> <td style="width:50%;">2回目 体位変換と移乗、移送の援助</td> </tr> <tr> <td>3回目 体位変換と移乗、移送の援助(演習)</td> <td>4回目 食事、排泄の援助</td> </tr> <tr> <td>5回目 食事、排泄の援助(演習)</td> <td>6回目 食事、排泄の援助(演習)</td> </tr> <tr> <td>7回目 バイタルサインとは 呼吸・意識</td> <td>8回目 体温</td> </tr> <tr> <td>9回目 脈拍、血圧</td> <td>10回目 脈拍、血圧</td> </tr> <tr> <td>11回目 血圧測定(演習)</td> <td>12回目 血圧測定技術の自己評価方法(演習)</td> </tr> <tr> <td>13回目 睡眠、休息</td> <td>14回目 バイタルサイン測定(演習)</td> </tr> <tr> <td>15回目 試験</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align:center">※ 実習室での技術演習があります</p>					1回目 活動とは	2回目 体位変換と移乗、移送の援助	3回目 体位変換と移乗、移送の援助(演習)	4回目 食事、排泄の援助	5回目 食事、排泄の援助(演習)	6回目 食事、排泄の援助(演習)	7回目 バイタルサインとは 呼吸・意識	8回目 体温	9回目 脈拍、血圧	10回目 脈拍、血圧	11回目 血圧測定(演習)	12回目 血圧測定技術の自己評価方法(演習)	13回目 睡眠、休息	14回目 バイタルサイン測定(演習)	15回目 試験	
1回目 活動とは	2回目 体位変換と移乗、移送の援助																				
3回目 体位変換と移乗、移送の援助(演習)	4回目 食事、排泄の援助																				
5回目 食事、排泄の援助(演習)	6回目 食事、排泄の援助(演習)																				
7回目 バイタルサインとは 呼吸・意識	8回目 体温																				
9回目 脈拍、血圧	10回目 脈拍、血圧																				
11回目 血圧測定(演習)	12回目 血圧測定技術の自己評価方法(演習)																				
13回目 睡眠、休息	14回目 バイタルサイン測定(演習)																				
15回目 試験																					

専門分野 I

科目名	基礎看護技術Ⅲ Nursing ArtsⅢ		①環境	講師	①岩井 公佑・専任教員
			②清潔		②鈴木 諭子・専任教員
講義時期	1年前期	講義回数	23回	単位・時間数	①1単位(45)の内(18)
		講義方法	講義・演習		②1単位(45)の内(27)
試験予定	1年次9月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする。				
参考書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②、③(医学書院)				
講義のねらい	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の快適で安全な生活環境を理解し、対象に適した病院、病棟の環境を整えるの知識、技術、態度を習得する。 2. 人間にとっての清潔の意義を理解する。 3. 対象に適した清潔援助を実践するための知識、技術、態度を習得する。 				
学習目標	<p>《環境》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間が生活するための適切な環境条件を理解できる。 2. 看護における環境調整の意義と役割、方法を理解できる。 3. 病床環境の調整に関する援助の実践ができる。 <p>《清潔》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 清潔の概念を、健康生活と関連づけて理解できる。 2. 患者にとっての清潔の意義と必要性を理解できる。 3. 対象の健康状態や個別的条件に応じて、清潔の援助方法を判断し選択できる。 4. 清潔援助技術を実践するための知識・技術・態度を習得できる。 5. 演習において対象に配慮ある行動を意識して、実践することができる。 				
講義概要	<p>《環境》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病室と療養環境の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1)環境とは 2)人間と環境 3)適切な病室と病床環境の条件 4)看護者の役割 2. 病床を整えるための基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1)病院で用いられる主なベッドと寝具類 3. ベッドメイキングの実際 <ol style="list-style-type: none"> 1)シーツ類のたたみ方 2)オープンベッドとクローズドベッド 3)臥床患者のシーツ交換 <p>《清潔》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 清潔援助とは <ol style="list-style-type: none"> 1)清潔援助の種類・対象・目的 2)皮膚の構造と機能 2. 健康生活における清潔の意義 <ol style="list-style-type: none"> 1)日常生活における身体の清潔の意義 2)日常生活における衣服の清潔の意義 3. 健康障害時の清潔について <ol style="list-style-type: none"> 1)健康障害時の身体と衣服の清潔 2)清潔援助の方法と注意点 4. 健康障害のある患者への援助(技術演習) <ol style="list-style-type: none"> ①清拭・寝衣交換 ②洗髪 ③陰部洗浄 ④手浴・足浴 ⑤爪切り ⑥口腔ケア 5. 口腔ケアの看護過程 				
講義内容	<p>《環境》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 病室と病床環境の基礎知識 2回目 病床を整えるための基礎知識 3回目 病床を整えるための援助技術(ベッドの取り扱い、シーツのたたみ方) 4回目 ベッドメイキングの実際(デモンストレーション見学と実技演習) 5回目 ベッドメイキングの実際(グループに分かれて実技演習) 6回目 ベッドメイキングの実際(グループに分かれて実技演習) 7回目 臥床患者のシーツ交換の実際と環境整備の実際(デモンストレーション見学) 8回目 臥床患者のシーツ交換(グループに分かれて実技演習) 9回目 臥床患者のシーツ交換(グループに分かれて実技演習) <p>《清潔》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 身体の清潔 2回目 清潔援助技術 3回目 清拭デモンストレーション 4回目 清拭演習① 5回目 清拭演習② 6回目 陰部洗浄演習 7回目 洗髪デモンストレーション 8回目 洗髪演習① 9回目 洗髪演習② 10回目 足浴演習 11回目 清潔援助技術① 12回目 清潔援助技術② 13回目 口腔ケア演習 14回目 試験(環境・清潔) <p>※ 《環境》《清潔》ともに、実習室での技術演習があります</p>				

専門分野 I

科目名	基礎看護技術Ⅳ(栄養・排泄) Nursing ArtsⅣ		講師	本田 里香・専任教員	
講義時期	1年前期	講義回数	15回	単位・時間数	1単位(30)
		講義方法	講義・演習		
試験予定	1年次9月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする。				
参考書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院)				
講義のねらい	1. 人間にとっての栄養、排泄の意義を理解する。 2. 対象に適した栄養・排泄の援助をするための知識・技術・態度を習得する。				
学習目標	1. 生命維持に不可欠な栄養、排泄のメカニズムを理解できる。 2. 栄養、排泄の障害を理解できる。 3. 栄養、排泄の援助が実践できるための知識・技術・態度を習得できる。 4. 胃管挿入、浣腸、導尿に必要な根拠を理解し、実施できる。				
講義内容	<p>1. 栄養と食事</p> <p>①食事の意義 ②食欲と食行動 ③消化吸収と排泄の機構 ④栄養摂取基準 ⑤栄養評価</p> <p>2. 栄養障害のある患者の援助</p> <p>①食事介助 ②経管栄養 ③高カロリー輸液</p> <p>3. 栄養障害のある患者への援助(技術演習)</p> <p>①胃管の挿入</p> <p>4. 栄養と食事のアセスメント</p> <p>5. 排泄の基礎知識</p> <p>①排泄の意義とメカニズム ②排泄障害 ③排泄を促す援助方法</p> <p>6. 排泄のアセスメント</p> <p>7. 排泄障害のある患者への援助(技術演習)</p> <p>①おむつ交換 ②グリセリン浣腸 ③導尿 ④膀胱内留置カテーテル管理</p>				
講義概要	<p>1回目 栄養摂取の機能、食欲・嚥下・食行動</p> <p>2回目 食事・栄養摂取のアセスメント(食事摂取基準、栄養評価)</p> <p>3回目 栄養・食事の意義、食事介助</p> <p>4回目 経管栄養(経鼻胃チューブの挿入と投与)</p> <p>5回目 経管栄養(胃瘻の特徴と管理)</p> <p>6回目 経静脈栄養(高カロリー輸液)</p> <p>7回目 排泄の意義とメカニズム</p> <p>8回目 排泄障害(排泄障害と看護)</p> <p>9回目 排泄障害(排泄障害と看護)</p> <p>10回目 胃管挿入、経腸栄養の投与</p> <p>11回目 胃管挿入、経腸栄養の投与(演習)</p> <p>12回目 浣腸(演習)</p> <p>13回目 導尿、膀胱内留置カテーテル(援助の方法と管理)(演習)</p> <p>14回目 導尿、膀胱内留置カテーテル(援助の方法と管理)(演習)</p> <p>15回目 試験</p> <p>※ 実習室での技術演習があります</p>				

専門分野 I

科目名	基礎看護技術V Nursing Arts V		生体機能管理	講師	岩井 公佑・専任教員																								
			感染予防																										
講義時期	1年後期	講義回数	23回	単位・時間数	1単位(45)																								
		講義方法	講義・演習																										
試験予定	1年次2月																												
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする。																												
参考書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②、③(医学書院) フィジカルアセスメントガイドブック(医学書院)																												
講義のねらい	1. 看護の基本である感染予防に必要な基本的知識、技術、態度を習得する。 2. 診療の場や検査における看護の役割を理解し、対象をふまえた実践のための知識・技術・態度を習得する。																												
学習目標	<p>《感染予防》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スタンダードプリコーション、感染経路別予防策の基礎知識が理解できる。 2. 無菌操作の技術が習得できる。 <p>《生体機能管理》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物療法の意義と与薬方法の種類と実際について理解できる。 2. フィジカルアセスメント、吸入、吸引の基礎知識を理解できる。 3. 口腔、鼻腔内、気管内吸引を実施できる。 4. 生体検査・検体検査の基礎知識を理解できる。 5. 皮下注射、筋肉注射、静脈血採血が安全に実施できる。 6. 静脈内採血法が安全に実施できる。 																												
講義概要	<p>《感染予防》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染の成立と感染予防における看護師の責務と役割 2. 感染予防策の実際(スタンダードプリコーションと感染経路別予防策) 3. 感染源対策としての洗浄、消毒、滅菌 4. 感染予防の技術演習 <ol style="list-style-type: none"> ①手洗い、滅菌手袋の着脱、ガウンテクニック ②無菌操作(綿球を用いた消毒、ガーゼ交換) <p>《生体機能管理》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フィジカルアセスメントの定義と要素(問診・視診・触診・打診・聴診) 2. フィジカルアセスメントの技術演習 <ol style="list-style-type: none"> ①呼吸音・心音・腸蠕動音の聴診 ②胸部・腹部の打診、腹部の触診 3. 吸入療法(噴霧吸入、酸素吸入)の基礎知識 4. 吸引(口腔・鼻腔内吸引、気管内吸引、胸腔内吸引)の基礎知識 5. 吸引の技術演習 <ol style="list-style-type: none"> ①モデル人形を用いた口腔・鼻腔内吸引、気管内吸引 6. 予薬に関する基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> ①予薬の目的と、職種間(医師、薬剤師、看護師)の役割 ②薬物の保管と管理 ③予防方法の種類と特徴(経口薬、口腔内薬、外用薬、直腸内薬、点眼薬) 7. 注射法に関する基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> ①注射器具の種類と構造 ②皮内・皮下・筋肉内注射の目的と適応、方法の実際 ③静脈内注射、輸血療法の目的と適応、方法の実際 8. 注射器法の技術演習 <ol style="list-style-type: none"> ①注射法の準備(アンプルカット、アンプル・バイアルからの薬液の吸い上げ) ②皮下注射、筋肉内注射 9. 生体検査・検体検査の基礎知識 10. 静脈血採血の技術演習 																												
講義内容	<table border="0"> <tr> <td>1回目 感染予防の基本的対策</td> <td>2回目 スタンダードプリコーション、経路別予防策</td> </tr> <tr> <td>3回目 洗浄・消毒・滅菌法</td> <td>4回目 衛生的手洗い、滅菌手袋の装着、ガウンテクニック</td> </tr> <tr> <td>5回目 無菌操作(包帯交換)</td> <td>6回目 フィジカルアセスメントの基礎知識</td> </tr> <tr> <td>7回目 呼吸音、心音、腸蠕動音の聴診</td> <td>8回目 噴霧吸入、酸素吸入の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>9回目 吸引の基礎知識</td> <td>10回目 口、鼻腔、気管内吸引の実際</td> </tr> <tr> <td>11回目 与薬に関する基礎知識</td> <td>12回目 皮内、皮下、筋肉内注射</td> </tr> <tr> <td>13回目 静脈内注射、輸血</td> <td>14回目 注射器、注射針の取り扱い</td> </tr> <tr> <td>15回目 皮下、筋肉内注射の実際</td> <td>16回目 皮下、筋肉注射の実際</td> </tr> <tr> <td>17回目 検査の基礎知識 (生体検査、検体検査)</td> <td>18回目 採血の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>19回目 採血の実際(注射器採血)</td> <td>20回目 採血の実際(注射器採血)</td> </tr> <tr> <td>21回目 採血の実際(真空管採血)</td> <td>22回目 採血の実際(真空管採血)</td> </tr> <tr> <td>23回目 試験</td> <td></td> </tr> </table>					1回目 感染予防の基本的対策	2回目 スタンダードプリコーション、経路別予防策	3回目 洗浄・消毒・滅菌法	4回目 衛生的手洗い、滅菌手袋の装着、ガウンテクニック	5回目 無菌操作(包帯交換)	6回目 フィジカルアセスメントの基礎知識	7回目 呼吸音、心音、腸蠕動音の聴診	8回目 噴霧吸入、酸素吸入の基礎知識	9回目 吸引の基礎知識	10回目 口、鼻腔、気管内吸引の実際	11回目 与薬に関する基礎知識	12回目 皮内、皮下、筋肉内注射	13回目 静脈内注射、輸血	14回目 注射器、注射針の取り扱い	15回目 皮下、筋肉内注射の実際	16回目 皮下、筋肉注射の実際	17回目 検査の基礎知識 (生体検査、検体検査)	18回目 採血の基礎知識	19回目 採血の実際(注射器採血)	20回目 採血の実際(注射器採血)	21回目 採血の実際(真空管採血)	22回目 採血の実際(真空管採血)	23回目 試験	
1回目 感染予防の基本的対策	2回目 スタンダードプリコーション、経路別予防策																												
3回目 洗浄・消毒・滅菌法	4回目 衛生的手洗い、滅菌手袋の装着、ガウンテクニック																												
5回目 無菌操作(包帯交換)	6回目 フィジカルアセスメントの基礎知識																												
7回目 呼吸音、心音、腸蠕動音の聴診	8回目 噴霧吸入、酸素吸入の基礎知識																												
9回目 吸引の基礎知識	10回目 口、鼻腔、気管内吸引の実際																												
11回目 与薬に関する基礎知識	12回目 皮内、皮下、筋肉内注射																												
13回目 静脈内注射、輸血	14回目 注射器、注射針の取り扱い																												
15回目 皮下、筋肉内注射の実際	16回目 皮下、筋肉注射の実際																												
17回目 検査の基礎知識 (生体検査、検体検査)	18回目 採血の基礎知識																												
19回目 採血の実際(注射器採血)	20回目 採血の実際(注射器採血)																												
21回目 採血の実際(真空管採血)	22回目 採血の実際(真空管採血)																												
23回目 試験																													

専門分野 I

科目名	基礎看護技術VI Nursing ArtsVI		①手術室看護	講師	①赤川 博子・認定看護師
			②救急看護		②福森 茂樹・専任教員
			③集中治療看護		③若林美由紀・看護師
講義時期	1年後期	講義回数	15回	単位・時間数	①1単位(30)の内の(8)
		講義方法	講義・演習		②1単位(30)の内の(10)
試験予定	2年次5月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする。				
参考書	① カラービジュアルでみてわかる！はじめての手術看護(メディカ出版) ①③系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院) ②系統看護学講座 別巻 救急看護学 (医学書院)				
講義のねらい	1. 生命の危機状況および周手術期にある対象と家族に対し、看護を提供するために必要な基礎的知識と技術、態度を習得する。 2. 救急時における看護師の役割と看護を理解し、実践する力を養う。				
学習目標	《手術室看護》 1. 手術室看護師の役割が理解できる。 2. 手術時の基本体位と必要な看護が理解できる。 3. 手術室見学:ガウンテクニック、手洗いを経験できる。 《救急看護》 1. 救急看護について理解できる。 2. 救急時および心肺停止状態の患者のアセスメント、救急処置について理解できる。 3. 救急時の応急処置・心肺蘇生法の技術が習得できる。 《集中治療看護》 1. 生命の危機状況にある対象の治療の場と看護の役割が理解できる。 2. 生命の危機状況にある対象の身体的反応及び看護の要点が理解できる。 3. 危機的状況にある患者と家族へ精神的支援が考えられる。 4. ME機器の使用目的と安全管理について理解できる。				
講義概要	《手術室看護》 1. 手術看護とは 2. 手術室看護師の役割 3. 手術時の基本体位 《救急看護》 1. 救急看護とは 2. 救急看護における看護師の役割 3. 救急看護の対象の特徴 4. 救急時のアセスメント(重症度評価)と救急処置の実際と看護 《集中治療看護》 1. ICUの定義・種類・看護の特徴 2. 呼吸・循環管理(体液管理)が必要な患者の看護の要点 3. ICU患者・家族への精神的支援 4. 呼吸肺理学療法の演習 5. ME機器の特徴と安全				
講義内容	《手術室看護》 1回目 手術室看護とは 手術室看護師の役割(間接介助看護師・直接介助看護師) 2回目 手術時の基本体位 3回目 手術室見学(手洗い、ガウンテクニック演習、レポート作成) 4回目 手術室見学(手洗い、ガウンテクニック演習、レポート作成) 《救急看護》 1回目 救急看護とは 2回目 救急看護のアセスメントの視点 3回目 救急処置の実際と看護 4回目 救急処置の実際と看護(心肺蘇生法) 5回目 救急処置の実際と看護(発表会) (熱中症、熱傷、中毒、溺水、刺咬症、頭部外傷) 《集中治療》 1回目 ICUとは 役割、看護、特徴について 2回目 呼吸、循環管理の看護 3回目 呼吸、循環管理の看護 4回目 事例学習 5回目 ICU見学 6回目 試験				
				※JCHO東京新宿メディカルセンターの 手術室と集中治療室の見学があります。 手術室見学の際、白い靴下が必要です。	

専門分野 I

科目名	基礎看護技術Ⅶ 基礎看護技術統合演習 Nursing Arts Ⅶ		講師	岩井公佑・他専任教員全員	
講義時期	1年後期	講義回数	15回	単位・時間数	1単位(30)
		講義方法	講義・演習		
試験予定	1年次10月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする。				
参考書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②(医学書院) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学③(医学書院) 看護学生のためのレポート&実習記録の書き方(メヂカルフレンド社)				
学習のねらい	学習した知識と技術を統合し、対象にあった日常生活援助が実践できる。				
学習目標	1. 設定した事例の援助の必要性を考えて、日常生活援助の計画ができる。 2. 立案した計画にそって日常生活の援助技術を実践することができる。 3. 基礎看護技術統合演習により、行った看護活動の評価ができる。 4. 看護者としての姿勢や態度を考えることができる。				
講義概要	1. 演習の進め方について(オリエンテーション) 2. 紙上事例をもとに、患者の状態や症状にあわせ必要な援助を考える。 グループワークを行う 3. 統合演習計画をグループで立てる 4. 統合演習(技術演習)				
講義内容	1回目 演習の進め方についてのオリエンテーション 2回目 受持患者記録、援助計画の作成 3回目 援助計画の作成、実技練習 4回目 援助計画の作成、実技練習 5回目 援助計画の作成、実技練習 6回目 援助計画の作成、実技練習 7回目 援助計画の作成、実技練習 8回目 模擬患者への実践、リフレクション 9回目 模擬患者への実践、リフレクション 10回目 模擬患者への実践、リフレクション 11回目 模擬患者への実践、リフレクション 12回目 模擬患者への実践、リフレクション 13回目 模擬患者への実践、リフレクション 14回目 模擬患者への実践、リフレクション 15回目 実技試験 ※ 学習してきた看護技術を事例に合った方法で演習します				

専門分野 I

科目名	看護研究 I (基礎) Nursing Research I		講師	鈴木 諭子・専任教員	
講義時期	2年後期	講義回数	8回	単位・時間数	1単位(15)
		講義方法	講義		
試験予定	2年次12月				
評価方法	筆記試験(80%)、レポート(20%)。60点以上を合格とする。				
参考書	別巻14 看護管理／看護研究／看護制度(メヂカルフレンド社) 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方(照林社)				
学習のねらい	看護研究の意義と必要性を理解し、看護研究を行うために必要な基礎的知識を学ぶ。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師にとっての研究の意義・必要性を理解できる。 2. 看護研究の基本的な考え方・方法を理解できる。 3. 事例研究(ケーススタディ)の研究方法を理解する。 4. 研究テーマにそった文献検索ができる。 				
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究とは 2. 研究における倫理的配慮 3. 研究デザイン <ol style="list-style-type: none"> 1) 実験研究 2) 調査研究 3) 事例研究 4. 文献検索の方法 5. 文献検索の実際(演習) 				
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1回目 看護研究の概念 2回目 実験研究と調査研究 3回目 事例研究 4回目 文献検索の方法(講義、演習) 5・6・7回目 看護学生看護研究学会聴講 8回目 試験 				

専門分野 I

科目名	看護研究Ⅱ(実践)			講師	本田里香・他専任教員全員
講義時期	3年通年	講義回数	23回	単位・時間数	1単位(45)
		講義方法	講義・演習		
試験予定	事例研究論文:最終提出3年次10月				
評価方法	事例研究論文、研究発表の総合(100%)。60点以上を合格とする				
参考書	看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方(照林社)				
学習のねらい	事例研究を通して文献の活用方法を学び、論理的思考を高め、看護研究の基礎的知識・技術・態度を養う。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の実際を学び、研究活動を通じて事例研究の基礎的知識を身につけることができる。 2. 実習の事例からテーマを決定し、看護研究論文としてまとめて発表することができる。 				
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例研究(論文の構成) 2. 研究活動 (Ⅲ(2)期～Ⅳ期実習で受け持った事例をもとに、事例研究を行う。) 3. 研究発表の方法と研究発表会 				
講義内容	<p>1回目 事例研究論文の構成とその要素</p> <p>2回目 文献検索</p> <p>3回目 研究計画</p> <p>4回目 論文作成(はじめに、研究目的)</p> <p>5回目 論文作成(事例紹介、看護の実際)</p> <p>6回目 論文作成(事例紹介、看護の実際)</p> <p>7回目 論文作成(考察)</p> <p>8回目 論文作成(考察)</p> <p>9回目 論文作成(考察)</p> <p>10回目 論文作成(考察・結果)</p> <p>11回目 研究発表の方法</p> <p>12回目 抄録作成</p> <p>13回目 研究発表(口演)準備(補助資料;パワーポイント、発表原稿)</p> <p>14回目 研究発表(口演)準備(補助資料;パワーポイント、発表原稿)</p> <p>15～21回 看護研究発表会</p> <p>22・23回 看護研究 総括</p> <p>※ 各自で主体的に進めていくことが必要です。 適宜中間提出があります。</p>				

専門分野 I

科目名	基礎看護学実習 I			講師	専任教員
実習時期	1年前期	実習場所	外来・診療協力部門 施設部門	単位・時間数	1単位(45)
実習方法	<p>見学実習</p> <p>1. 外来:内科・耳鼻科・外科・眼科・整形外科・救急外来、健康管理センター</p> <p>2. 診療協力部門:総合案内、医事課、臨床検査室、薬剤部、中央材料室、透析室、放射線室、栄養部、リハビリテーション室</p> <p>3. 施設管理部門:中央監視室、清掃部門、洗濯室</p>				
評価方法	記録物、ミーティング参加度を評価基準に基づき総合的に評価する。60点以上を合格とする。				
実習のねらい	健康上の問題を持つ対象を理解し、保健医療福祉における看護のあり方を考え、看護の基礎的知識、技術を活用し必要な援助が行える能力を養う。				
実習目標	<p>1. 病院の概要、病院における保健医療福祉チームの機能と役割を知る。</p> <p>2. 外来受診の実際、健康問題をもつ対象への理解を深める。</p>				
実習内容	<p>1. 病院</p> <p>1) 病院の沿革・機能・特徴</p> <p>2) 病院の構造・設備、環境</p> <p>3) 病院の看護の沿革・理念・組織</p> <p>2. 外来</p> <p>1) 病院内における外来の役割</p> <p>2) 外来の構造・設備</p> <p>3) 外来の看護活動における役割と責任</p> <p>4) 外来で働く他職種の役割と責任</p> <p>5) 外来を受診する人の状態と心理</p> <p>3. 健康管理センター</p> <p>1) 病院内における健康管理センターの役割</p> <p>2) 健康管理センターの構造・設備</p> <p>3) 健康管理センターで働く人の役割と責任</p> <p>4. 診療協力部門</p> <p>1) 病院内における診療協力部門の役割</p> <p>2) 診療協力部門の構造・設備</p> <p>3) 診療協力部門で働く人の役割と責任</p> <p>5. 施設管理部門</p> <p>1) 病院内における施設管理部門の役割</p> <p>2) 施設管理部門の構造・設備</p> <p>3) 施設管理部門で働く人の役割と実際</p>				

専門分野 I

科目名	基礎看護学実習Ⅱ			講師	専任教員
実習時期	1年後期	実習場所	病棟	単位・時間数	2単位(90)
実習方法	病棟実習 1. 病棟の看護師、医療スタッフに付いて見学実習を行う 2. 受持ち患者を中心に基本的な日常生活援助を実践する 3. 受持ち患者は、原則として何らかの日常生活動作に看護者の援助を必要とし、言語によるコミュニケーションが可能な成人期・老年期にある患者を1名受け持つ 4. 学びの共有のため発表会を行う				
評価方法	記録物、ミーティング参加度を評価基準に基づき総合的に評価する。60点以上を合格とする。				
実習のねらい	健康上の問題を持つ対象を理解し、保健医療福祉における看護のあり方を考え、看護の基礎的知識、技術を活用し必要な援助が行える能力を養う。				
実習目標	1. 患者および取り巻く環境を理解する 2. 病棟の看護活動の実際を知る 3. 患者の状態に応じた基本的な日常生活援助ができる				
実習内容	1. 患者を取り巻く環境 1)病棟の構造、設備 2)病院、病棟における患者の事故防止および感染予防対策 3)看護師の役割と活動 4)医療スタッフの役割 2. 患者の理解 1)患者の入院生活の場と1日の流れ 2)入院が患者の基本的欲求と日常生活行動に及ぼす影響 3)日常生活援助を受ける患者の心理 3. 日常生活援助の実際 1)患者の反応・状況の観察 2)患者の状態に応じた日常生活援助の計画 3)安全・安楽を考慮した援助 ・コミュニケーション ・記録、報告 ・環境調整 ・栄養、食事動作 ・排泄動作・清潔動作(陰部洗浄、清拭、洗髪、手浴、足浴など) ・体位変換、移動動作 ・電法 4)実施した援助の考察 4. 記録・報告 1)看護場面で用いられる記録の種類 2)客観的かつ簡潔な記録 3)的確に必要な内容を含んだ報告				